
身勝手な楽しい？巻き込まれ人生

クー子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

身勝手な楽しい？巻き込まれ人生

【Nコード】

N0545Y

【作者名】

クー子

【あらすじ】

最近よくある巻き込まれ異世界物です。

プロローグ（前書き）

思いつきで、書いてみました。
いつまで続くか判りませんが、暇つぶしにでも
読んでみてください

プロローグ

「私、明日勇者になる！」

私の部屋に来てそう宣言したのは、友人だった。
来た時から、今日はやけに興奮していて
なんだかちよつと怖かった。

なんでも、神様とやらが夢の中にあらわれて
明日勇者として召喚されるらしい。
だから、家族や友人など親しい人たちに今日中に
お別れしておく様に言われたらしい。

役目が終わった後帰してもらえないのか聞いたの？
と聞くと、「無理だって」とのこと。

私とは違い、友人知人の多い友人。

さっさとお別れして来い！と部屋から追い出した。

プロローグ（後書き）

まだ、友人&主人公の名前が決まってません（汗）
早めに決めたいと思います。

1（前書き）

読んでいただいております。

朝、鳥の鳴き声がした。

私の住んでいるのは、都会のちょっと離れたところ
家賃が安いケド会社には近いというぎりぎりの所で

（それでも1時間はかかるけど）

だから、こんなにたくさんの鳥の声なんて聞こえるはず無い！

覚悟を決め立ちあがると回りが森だった。

キョロキョロ回りを見て、歩き始めた。

（やっぱり、森だ・・・。）

人が居た。

宙に浮いている人・・・っていうか少年しかも金髪美少年。

目があった！！

浮いたまま目の前に移動してきた

「おはよう」と挨拶してきた。

「？」

取り合えず人は発見出来たので、

質問してみることにした。

「あの、貴方誰ですか？」

「・・・アレ？聞いてない？君のお友達から。」

「お友達？」

「うーん、聞いてないみたいだね。君のお友達

今日勇者としてこの国に召喚されることになってるんだけど。」

「それは聞いてますが、ってこの国！？」

「っそ、この国。」

「なんで私までいるの!？」

「お友達がね、どうせだったら君も一緒に良いって言いだして、そのぐらいだったらいいよってOKして、

けど、同じ所にやつちゃうと君も勇者騒動に巻き込まれるし。

それはさすがに本人に確認しなきゃマズイかなって思ってた
とりあえずココにしてみました」

してみました　って・・・

「ってことは、アンタ神様？」

「アンタって・・・まあいいや、うん」

「で、本人に確認も無しにこんなとこに飛ばしてくれたわけ(怒)
あれ？」

「ねえ、もちろん帰れるわよねえ私関係無いもん！」

「すいません、無理です。」

「あ？あ」

「ひっ、ご、ごめんなさーい(泣)」

「で、如何してくれるの？」

「出来る限りの事をさせていただきます。」

「なに、当たり前前の事いつているの」

「ホントにすいませんでした」

「あつ、ちなみに此方に来た時点で、勇者と貴方様は不老不死にな
ってますんで。」

「えっ何それ。」

「あんまり気にしないでください。話すと30年ぐらいかかりますか
ら(噓)」

「まあいいか(なんかム力つくけど)」

「じゃ、ご希望があれば、伺います。」

うーんとりあえず、ココって異世界なんだよね。

異世界てことは、トリップ

異世界トリップ物の小説を参考にすればいいのか。

ああ、役に立たないと思っていた知識が役に立つとは・・・
ありえない！

あつとそんなことより、
えくとまずは、・・・。

1（後書き）

今回、セリフ多かった（笑）

ちよつと長めで読みずらかったら御免なさい。

まだ、名前決まってるませんでした。

2 (前書き)

いつも読んでいただいております。
前回の続きです。

あれから、神様が色々としてくれました。

まあ、とうぜんだよな。

と言うわけで、現在森の中にマイハウスがありそこでのんびりお茶しながら

卵温めてます。

何が、どうしてこうなったの？

ってなると思いますが、

ぶっちゃけると、

まず神様、私住む所無いんですけど

と言ったら、作ってくださいました。

（庭に湖、畑付き、家に地下付きログハウス） 森の中

ついでに、この世界の事何にも知らないんでどうにかして？っていったら

とりあえず文字の読み書きできるようにしてくれて

この世界の言語もしゃべれるようにしてくれました。

あとは、この世界ってやっぱ魔法使えたりするの？ってきいたらつかえるよ っていうので、だったら王道のチート系でしょ。

って事でヨロシクね ってチートにしてみました。

神様曰く、勇者より強いカモ（汗）と言っていました、

もちろん勇者一行に加わるなんて事しませんよ。

ちゃんと、釘さしときました（笑）。

後は、一人だとさびしいので誰でもいいので私の事を（事情）を知っている人が身近にほしい、と言ったら、卵くれました。コレ、人じゃないよ？

そう聞いたら、温めて数時間後にかえるからそれまで頑張れ！
と言われた。

この世界のヒトは、卵から生まれるのか？

不思議に思っていると、そんなわけない！と突っ込みが。

しかも頭叩かなくても・・・（どっから出したそのハリセン）

何でも、生まれた後は私と一緒にいて判らない事をこの卵の子に聞くと

色々教えてくれるらしい。

しかも、私の事もちゃんと承知してくれている、おりこうさんだという。

うん、すごく楽しみ

貰った卵を抱きながら、じゃ家の説明を・・・

と言つて、家の説明を一通り受け

じゃあ、こんなんでいい？ゆるしてくれる？

というので、じゃ、家の周りに私以外は入れないように（防犯対策）
結界はつて？

あと結界内は常に気温を一定に。

それから、結界内に入るのに鍵を4つつぐらい作ってくれる？

それでチャラ。（今のところは）

カッコ内が気になるけど・・・まあいいかって、

そのあと神様は帰って行きました（チャンチャン）

そして、冒頭に戻つて・・・

お茶をのんでいるわけです。

ああ、長かった。

2（後書き）

なんか、突っ込みとかハリセンとかコメディぽくなってきたので
タグに（コメディ）つけたしました

3 (前書き)

いつも読んでいただいております。

あれから5時間未だ卵は、何にも変化なし。

普段だったら、そろそろ昼食を取り始めている時間。

そう言えば、数日の食糧はあると言ったつけ・・・

朝も何も食べていなくてお腹も減ったし、何か食べよう。

さつき案内してもらったキッチンのほうへ移動して

（その間卵は籠があつたので籠の中へいれておいた）

戸棚を見てみると、パンや卵、その他などホントに数日分？って言うぐらい

十分にあつた。

せっかくなので、簡単に卵をスクランブルエッグにして

お肉もあつたので薄切りで塩コショウ（事前に神様から調味料は一応聞いておいた）

をして、焼いて

野菜と一緒にパンに挟んで食べた。

ちなみに、フライパンやお鍋など一通りそろっていた。

さすがに、ガスや電気までは通っていない

火は魔力で点けた。

（チート能力の一部で魔力膨大にあるから想像するだけで何でも使えるよ

と言われ、指先にろうそくの火を思い浮かべたらホントに点いてちよっとびっくりしたけど）

ちなみに、家は水道（庭の湖から水を引いている）付き　これお

まけだよ　BY神様

普通の家庭は、村で2〜3個の井戸を共同で使っているらしい

朝食を取り終わると、お茶を入れ直しま卵を抱え温め始めた。

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

（数時間後）

腕の中から、ぴきっぴききっつと小さな音が聞こえた
下を向くと卵に亀裂が！

（あれっ？そんなに私力強く抱きしめてたっけ！？）
ちよつとだけパニックになりながらも、

卵は抱えたまま。

卵の亀裂の音はさつきよりも聞こえ、しかも一部欠け始めた。
（あれ？？もしかして孵化し始めてる？）

とりあえず、籠の中に一端置いて様子を見ることに。
すると、数十分後・・・

前に飼っていた猫とそっくりの黒猫が・・・

「お久しぶりです。」

「へ？？」

今なんて？

「だから、お久しぶりです。おぼえてないですか？僕の事（泣）」

「えーと、君にそっくりの子だったら知ってるんだけどね？」

「え その子です僕」

「ナイナイ」

「あるある」

「ないない」

「あるある」

「ないないってホント、だってその子拾って1か月でしっ死んじやつたんだから（泣）」

「はい、あの時アリガトウございました。その時は、勝手に飛び出

して御免なさい。」

「えっ、なんで?？」

「だから、さつきから言ってるじゃないですか。あの時の僕は僕だつて。」

神様が融通利かせてくれたみたいです。」

「じゃあ、ずっといつしょ?」

「はい。しかも僕も貴方と一緒に不老不死らしいですから先に死ぬなんて事もないですよ。」

「よかった（泣）・・・でもこの世界の知識とか平気?かなり頼りたいんだけど」

「卵の時に詰め込まれたので平気です。」

「えっと、コレ言ったら怒るかもしれないけど、神様には人間でつてお願いしたんだけど・・・。」

すると、いきなりテーブルの上に飛び乗りそこから一回転

一瞬で青年に・・・。

「これでOKですか?」

「はい、OKです。」

3（後書き）

やっと卵孵りました。

神様は、後ろめたいのか会話が楽しかったのか結構主人公に甘めでした。

4（前書き）

早速お気に入り登録してくださった方ありがとうございます
ございました！！

こんなありきたりな話ですが暇つぶしにでも読んでいただ
さいね

アレから。。。

そう言えば猫のときしか名前なかったよね？

青年のときもその名前でもいい？と聞くと

それはちよつと（；；）というので

名前考えました。

それでは発表しまゝゝゝす！！

（黒猫）ちび（青年）クロー

はい！そのままです（笑）

判りやすく、黒猫 黒 クロー となりました。

ちなみに、（ちび）は以前つけた名前です。

名前も決まった所でコレからの事を話合おうじゃありませんか！

まずは、近くの町の事をおしえてもらいました。

その前に、今いる国の事を聞いておいたほうがいいんじゃないか？

いえ、そんなこと如何でもいいんです。

必要な時に聞けば！

と言う事で、買い物や仕事で利用する町の事を聞きました。

名前：リズ

村々に囲まれた町で比較的大きな町

色々なお店が出ており買い物に便利

この森は、ちよつと離れた所にあり

町に行くには村の1つスミカ

という村を通らなくてはいけならしい。

とりあえず、お金もないし畑も放置はもったいないので

明日は2人で町へ行きギルドへ登録

そして畑にまく種や苗を買ったためのお金を作ろう
と決めた。

ちなみにどうやったらお金稼げる？

仕事できる？とちびに聞いた所

ギルドへ登録すれば？と教えてくれギルドの存在を知った。
うん、異世界だねえ・・・。

・・・次の日・・・

朝食をとり、

そう言えば、町はちよつと遠いつて言ってたよね。

なんとか、早めにつけないものか？

ちびに早速相談してみると、

んじゃ、早速行く？準備いい？

と言うので、とりあえず前もって神様から
貰っておいたリュックをしょってOK！

ちびについていくとドアの前。

コンナトコロになんの用？なんて思っていると

ドアを開け、イキナリ押し込み

ちびも飛び込んできた。

かちゃり・・・。

締めちゃった。

今度は目の前にあるドアをちびがあけると、
道に出た。

「もう町だよ」

早！！

後ろを見ると大きな木にドアがついていた。

周りを見ると人は通っているけど誰一人気づいていない・・・。

「結界だよ。これもあの家の特典の1つ、あのドアくぐると

ココに出れてしかも結界があるからまわりの人は気付かない！」

「すごい」

「とりあえず行くよ」

そういつて青年姿になったちび、もといクローはギルドへ連れて行ってくれた。

4（後書き）

名前やつと決定！！しました（笑）
まだ、主人公の名前でできませんが（^^；
たぶん次当たりで出てくる力ナ？？

5（前書き）

いつも読んでいただいております。

3話の終わりのほうですが、

（テーブルの上に乗る）と言うところは、（テーブルに飛び乗り）
に訂正させていただきました。

ギルドは、冒険ものの漫画なんかによく出てくるような建物で
中もそうだった。

ちなみに右半分は昼間は飯屋、夜は酒場になるそうだ。

私たちは、とりあえず登録だけでも済まそうと
受付カウンターにいたおねーさんに声をかけた。

「すいません、登録したいんですが・・・。」

「はい、登録は初めてですか？」

「はい、初めてです。」

「では、此方に必要事項をご記入ください」

・・・

・・・

記入が終わり、2枚の紙をおねーさんに渡すと、

「では、少しお待ちください。」と言われ待つことに。

紙には、

いざ仕事している途中で大けがを負ったり

死亡してもギルドでは、保証しませんよ

的な事が書いてあったり、種族、名前、

その他戦闘の際に關しての質問がいくつかあった。

私は

種族：人間

名前：ツバキ マツダ

クローは、

種族：獣人

名前：クロー マツダ
と記入した。

手続きが終わり、カードをもらった。

コレからはこれが、身分書代わりにもなるそうだ。
ちなみに失くすと一度登録を取り消し、登録し直さなければいけない
と言うちよっと面倒な仕組みだった。

簡単におねーさんに説明してもらい、とりあえず
ココまで来たから買いい物でも と思ったけど
肝心の先立つものがなかった（泣）

結局、クローと話し

早速依頼を受けに受付へ

掲示板で、スミカ村からの依頼と言っのがあったので
その紙を取りおねーさんに渡した。

「お願いします。」

5 (後書き)

ギルドでの手続きでした。

6（前書き）

いつも読んでいただいております。

《ギルドと勇者一行について》

この世界では、一つの国単位で勇者召喚が行われる。

たまたまこの国で友人が勇者として召喚されたが国単位で召喚為、勇者と言うのはほかにも何人かいる。

また、勇者と魔王というのがRPGでの基本だが、この世界では魔王なんて存在

は無く、その代わり魔獣や魔物といった類のものが存在するためギルドでは、主にその討伐の依頼をうけていた。

ただ、上には上が居るもので時々めちやくちや強い敵が出て来るそーゆーときに勇者一行の出番なのだ。

じゃ、そのほかは勇者一行って何してるの？と言われれば、

何となくわかってもらえました？

クローの《ギルド講座1》でした。

6（後書き）

《ギルドと勇者一行について》とありますが、
大雑把な説明でした（^^；

ちなみに、《ギルド講座1》とありますがたぶん2は
無いと思います（笑）

7 (前書き)

いつも読んでいただいております。

ギルドで仕事を受けた私たちは、スミカ村に移動している間クローが色々説明をしてくれた。

説明を聞きながら移動していると、村が見えてきた。町よりは規模が小さくてのどかな村で家一軒一軒が素朴な感じで可愛い。

ついてみると、

家畜などの鳴き声が聞こえたり村の中心の広場などでは、子供たちが遊んでいたりと、ほのぼのとした風景だった。

私たちは、子供たちの中で

ちよつと大きな男の子に声をかけ

村長さんの所に案内してもらえるように頼んだ。

村長さんの宅に着くと「ありがとう」とお礼を言って男の子と別れ早速村長さん宅へ

ノックをすると「どうぞ」とちよつと気の抜けるような返事が聞こえたので

ドアを開け中へ入ると、中には白髪のおじいちゃんが座っていた。

「初めまして、ギルドから来ましたツバキです。ヨロシクお願いします。」

「同じく、クローです。ヨロシクお願いします。」

一礼をし挨拶すると、

「ココの村長やってるヤーユイじゃ。ヨロシクで、さつそくだがの？」

村と森の間に出てくる魔物退治してほしいんじや。

この村は、森がすぐ近くにあるから

定期的に退治してもらわんと安心できないいन्द。

退治後は、いちいちよ寄るのも大変だろうから直帰でかまわんから」

そう言つて、村長さんは具体的にどの辺に魔物が出没するかなど
教えてくれ「じゃ、大怪我には気おつけての」

と言つて、送り出してくれた。

8（前書き）

いつも、読んでいただいております。

教えられた場所に行くと、
そこは森のすぐ目の前

「イキナリ戦闘だと怖いだろうから敵さんが来るまで練習しよう」
クローがそう提案してくれたので、私は練習する事にした。

まず、一度火をつけた事があるので
それを思い出し、もう少し火力を上げて放ってみた。

すると、森の木に火が点いてしまい慌ててパニックしていると
隣にいたクローが水を出して消してくれた。

（万能猫だな）今は猫じゃないケド（笑）

「ありがとう」と言って、
今度は水を出したり、近くにあった岩を浮かしてみたりと、
他にもいろいろと試してみた。

ある程度、馴れて来たところで
その場で座り少し休憩することにした。

休んでいると森の中から
ガサガサと音が聞こえ
慌てて立ちあがって警戒していると

まるでト　口の真つ　ク　スケに尻尾を生やし
大きくしたような生物が団体でやってきた。

クローは「尻尾は持ち帰るからね。」といって
団体さんに突っ込んでいった。

私も、周りを見渡しさつき浮かせて遊んだ岩をもう一度
浮かせ真つ　ク　スケの一匹に的を絞り
思いつきり上から落とすと

元々弱いのかあつという間に尻尾を残し消えてしまった。
その調子で、数は多かったがクローと2人で

なんとか全部かたづけると尻尾を回収

時々くろい尻尾に白い尻尾が混じってたが

気にせず残らず回収し、村長さんが立ち寄りなくてもいい
と言っていたので、お言葉に甘え村を通りギルドに帰った。

8（後書き）

ちなみにクローは敵が弱いと見てスグ分ったので
拳で退治しました

9（前書き）

今回は、短いです。

ギルドに着くと、

「終わりました」と受付のおねーさんに報告

すると「じゃ、退治してきた魔物の一部を出してね」と言われ
尻尾を渡すと、「今計算するからちょっと待っててね」
と言われ、

受付の近くで待つことに・・・

周りを見渡しながらかまっていると

「ツバキさん、終わりましたよ」

と呼ばれたので、受付に行くと

銅貨30枚

銀貨8枚

くれた。

どうやら、これが報酬らしい。

私たちは、おねーさんに近くの安くよい品が置いてある
お店の情報を聞いて早速、聞いたお店に向かった。

9（後書き）

ちなみに、

銅貨＝100円

銀貨＝10000円

です。（大雑把ですが・・・。）

10（前書き）

いつも、読んでいただいております。

ギルドのおねーさんに教えられた店は3つの店

・武器や防具のお店　・生活雑貨店　・洋品店
教えられた所は。どのお店も隣あっていて家族経営していて
武器屋は父親、生活雑貨店は母親（趣味も兼ねている）
洋品店は娘夫婦が経営しているそうだ。

最初に、目的の種を買うため生活雑貨店に入った。

すると、ちよつと狭いお店に色々な品物があり、奥に行くと恰幅の良いおばさんが

「いらつしゃいませ」と声をかけてくれた。

「すみません、野菜の種か苗が欲しいんですが・・・」
と言うと、「ちよつとまってるね」

といつて、奥に引込んでしまった。

少し待っていると、「今の時期だったらコレだね」といって見せてくれた

白菜の苗を持ってきてくれた。

「白菜ですか・・・」

「これ、パクサイだよ」

クローが名前を訂正してくれた。

小さい声で、

「この世界の野菜って微妙に名前が違うんだよね。

味とか見た目は一緒なのに・・・。」と教えてくれた。

私は、

「あの結界内温度一定にしちゃったけど冬野菜とか、育つの？」と

聞くと

「冬野菜と夏野菜いっぺんには無理だけど、冬野菜育てたかったら、冬野菜だけとか

にすれば、気温を調節できるようになってるから平気じゃない？」
と言う事なので、とりあえず、そのパクサイとその他の苗数種類購入した。

他にも、肥料や桑、ジョウロなども購入

次に、洋品店へ

ココでは、私とクローの洋服を数着購入。

庶民的なお店で、古着がほとんど

中には、店主であるアリーさん（雑貨店の娘さん）が趣味で作った服も

何着かあった。

手作りなだけあってちょっと割高だったので、

今回は、古着の中からシンプルなワンピースを2枚と

動きやすい衣類を上下2枚づつ。

それから、クローにも上下数枚づつ購入し、武器屋へ

武器屋では、クマみたいな大きなおじさんがいた。

「いらっしゃい！」

体もでかけりや声もでかい。

今回は、クローの武器を買いに来たので

ココでは、クローに任せることにした。

「すいません。武器が欲しいんですが」

「どんなんだい？」

「丈夫な剣で持ち運び便利なやつ」

「それじゃ、こんなどうだい？」

2、3本見せてもらって、結局一番最初に見せてもらった剣に決めたみたいだ。

チョット面白そうなので私も一本買ってみた。

クローはチョーカーについている水晶から望めば剣が出てくる

私のは、チョーカーではなく指輪から出てくる剣

確かに持ち運び便利だね（笑）

特にクローは猫に戻っても身につけてられるし

これだけ買い物するとさすがにお金のへりも早い

（またどんどん、稼がないと）

そう思いながら、家へ帰って行った。

10（後書き）

今回は、ショッピングでした。

買い物は楽しいですね

今回は、書いてても楽しかった（^^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0545y/>

身勝手な楽しい？ 巻き込まれ人生

2011年11月8日07時08分発行